

令和5年度 長野県塩尻志学館高等学校卒業証書授与式 式辞

長野県塩尻志学館高等学校 校長 宮川 安司

冬から春に向かうこの時季を「三寒四温」という言葉であてますが、これも地球温暖化の影響でしょうか、2月中旬の初夏を感じさせる日があると思えば、このところは真冬に逆戻りした陽気で、昨夜からの雪はまるで卒業生が学び舎を巣立つのを惜しむかのようです。

本日、ここに日頃から本校に対しまして格段のご支援・ご高配を頂いておりますご来賓の皆様のご臨席を賜り、令和六年度長野県塩尻志学館高等学校卒業証書授与式を挙げてまいすこと、誠に喜ばしく、衷心より御礼を申し上げます。

189名の卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。
卒業式にあたり、教職員を代表して御祝いの言葉を申し上げます。

皆さんにとって、塩尻志学館高等学校での三年間の生活はどうだったでしょうか。皆さんは中学校3年生から高校3年生の5月までの約3年間、いわゆるコロナ禍にあって、様々な制限下での学校生活を強いられていました。期待に胸膨らませて入学した高校生活も、いわゆる「普通の活動」ができない中にありました。特にクラスに新型コロナ陽性者に特定されると、発症前3日間の行動を確認され、濃厚接触者の特定に協力してもらいました。このことは、さぞかし苦痛な思いをさせてしまったと思います。そんな中、高校3年5月からコロナウィルスの感染防止対応が第5類となり、制限が緩和され日常に近い状態が戻ってきました。特に7月に行われた文化祭・桔梗祭では、生徒会役員を中心に躍動する皆さんの姿が今なお脳裏に焼き付いております。お隣の東京都市大塩尻高校の生徒と共に本校グラウンドで夜空に上る花火を見られたことは、まるで3年間重くのしかかっていた鉛のような鎧が吹き飛ぶかの感覚に浸るひと時だったと思います。

巣立つ卒業生の皆さんにお伝えしたいことを述べたいと思います。皆さんが3年間塩尻志学館高校総合学科での学びは、まさに現代社会で直面する課題に社会人として必要な資質を養うもきっかけがあったということです。そして、この学びを胸に社会に飛び込んで欲しいということをお伝えします。

それは「急速に発展するAI（人工知能）時代に求められる人としての資質」を養うきっかけを学んだということです。AIはそれまで様々な人が生み出したり経験したりした情報を、クライアントのリクエストに応じて最適な答えを導き出す技術であります。極論に言えば、その情報を導き出すスキルさえあれば自分の頭の中に記憶しておくことは不必要ということになります。困ったことに直面すれば、AIに問い掛ければ一定の大きな誤りのない答えが返ってくる時代になってきたということです。このことは、知識や思考の方法を記憶することが学力の主たる要素であるとして、高校も大学も偏差値なる物差しで、あたかも人の価値を測るような時代の終わりを告げるものであります。簡単にいえば、「どこの高校の出身とかどこの大学の出身」とかに縛られる時代は終わり、「どれだけの人と関わりどんな学びをしてどんな達成感を手にしたか」といったAIにはできない人にしかできない力を

どの位磨いたかが問われる時代が到来しているとも言えます。皆さんが本校・総合学科の特長ともいえる「産業社会と人間」「総合研究」といった学びの中で、そのきっかけやマイルドを得たと考えます。

「心の知能指数：EQ」という指標を知っていますか？IQ・知能指数に対して1990年に米国の心理学者ピーター・サロベイ氏とジョンメイヤー氏が提唱した理論であります。先ほど述べた記憶力を中心としたその人が生まれつきもつ資質をIQとするならば、様々な経験の中で、自分の感情の状態を理解するとともに他者の感情の状態を理解する。すなわち自己理解をとおして対人コミュニケーションを良好に保ち前向きな気持ちを引き出す能力のことです。EQの検査は現段階では、普及しておらず就職試験等に使われることはありませんが、AI時代に必要な能力として注目されている指標の一つであることは間違えありません。特にEQはIQと違って経験を積み重ねることで高めることができる力です。一般的にEQの高い人は、自分の感情や他者の感情を理解し調整する能力に優れているため、トラブルに動じず、冷静で落ち着きがあるとともに、違う価値観を柔軟に受け入れる包容力があると言われています。そんな力を養うカリキュラムが近い将来実現するかも知れませんね。「人生100年時代」これからも皆さんも私たちも、変動と答えのない時代を乗り越えるために学び続けます。そのきっかけとなる種は、この3年間の学びの中で蒔かれました。その種が芽を出し、大輪の花を咲かせる日が来ることを期待しています。

続きまして、本日ご列席いただきました保護者に皆様にお祝いを申し上げます。「お子様のご卒業、心からお慶び申し上げます。」本校として、この日を迎えられましたことは保護者の皆様のご理解とご協力があったのことと、教職員一同感謝して居ります。多感で不安定な思春期、加えてITの進歩により情報が飛び交う現代、私たちが高校生の頃より格段に生きにくい高校時代を送った子どもたちを辛抱強く見守っていただいた皆様に改めて敬意を表したいと思います。子どもたちは今はそのありがたさが本当の意味でわからないかもしれませんが、やがて高校生の親となったときに実感できるかと思います。どうか、その時までご健康に留意され、皆様も人生を楽しんでいただきたいと思います。「親の人生を犠牲にして子どもに幸せを」という時代ではありません。親も幸せな生き様が、大人の姿として子どもたちにうつり生かされると思います。

結びに、毎年使わせていただいている言葉を卒業生にはなむけたいと思います。皆さんが毎日取り組んだ「志学の時間」のサブタイトル「学ぶことは生きること」です。一生、学び続け目の前の壁をひとつひとつ乗り越える楽しさを味わってください。

卒業生及び保護者の皆様のご健勝を祈念しまして、式辞と致します。

令和6年3月1日

長野県塩尻志学館高等学校 校長 宮川 安司